

事業報告書

団体名	しろいしプロジェクト
代表者役職・氏名	代表 永井京花
事業名	アーティスト・イン・レジデンス事業～アートを日常に～
実施した事業の内容 ・活動内容 ・実施日時 ・場所 ・参加人数 等	① 地域住民と白石高校美術部と連携したアートワークの実施 場所：白石レジデンス shiro (宮城県白石市南町 1 丁目 2-6 8) 期間：6 月 20 日～7 月 21 日 参加人数：白石高校美術部 1 年生 5 名 (予定 5～8 名) 内容： 蔵王町にあるアーティスト・イン・レジデンス「遠刈田レジデンスマルヨシ」に滞在したことで、子どもたちと共に作品制作したアーティストの高久柊馬氏。今回は、白石市に新たにできたレジデンス施設に訪れた地域内の住民や子ども達と高久氏が交流を図りながら白石の資源である「白石和紙」を用いて己の表現方法でリサーチを基にした制作をしていく。その過程で白石和紙の特性や活かし方などを知ってもらう機会を設ける。 ② 壽丸屋敷での成果展「白石レジデンス成果展-高久 柊馬-」 場所：壽丸屋敷 開催日：7 月 14 日～7 月 21 日 (7 月 12, 13 日搬入、7 月 22 日搬出) 来客人数：725 名 (予定 640 名) 内容： 白石和紙の生産地である白石市内で展示を開催し、地域住民と共に制作した作品を白石市内の中心地にある壽丸屋敷にて展示する。 展示時にはサウンドアーティストを招き、作品が展示されている中でライブパフォーマンスを行い、集客とアートへの関心度を高めてもらう機会を設ける。 市民の方々に地域資源の素晴らしさを再認識し、今後の地域の可能性を探る機会を設けることを目的として開催する。 ・白石レジデンス成果展 トークイベント ゲスト：高久 柊馬 司会：永井 京花

7月21日（土）14:00～14:30

展示作品について、なぜこのように作ったのか？を会話方式で紐解いていく。

・「Σ°))))∈」(サカナ)によるライブパフォーマンス

7月21日（土）16:00～16:50

エレクトロニックなサウンドとヴォーカルが混じり合うエレクトロ・ポップな音楽ユニットによるライブパフォーマンス。

③ 交流・反省会

場所：壽丸屋敷

開催日：8月18日（日）

参加人数：16名（予定 10名）

アーティストと地域住民の方が交流をし、白石の文化や価値観を共有する場を作る。これにより、新しい視点やアイデアが地域の人に生まれ、コミュニティのつながりが強まることを目的とする。

幅広い年齢層に展覧会の告知を認知してもらえよう、チラシやポスターの設置場所を白石市から仙台市まで様々な地域に設置した。「白石蔵王駅」、「白石駅」、「遠刈田観光案内所」などの観光客から地元の人が利用する公共交通機関の施設、「碧水園」、「白石市図書館」、「メディアテーク」、「ターンアラウンド」、「晩翠画廊」、「むかでや」など展覧会や文化的なところに関心を抱きやすい層が行く場所、そして地元の人がよく利用をする「ツルハドラック」、「ヤマザワ」等のスーパーやドラックストアにチラシを置かせていただいた。白石市内の中学校・高校にもチラシを配り、アプローチを図った。



メディアテーク チラシ配布

事業の成果や効果

白石高校美術部と連携し共に作品を制作出来たことにより、アーティストから作品を作る時の技術や表現力を学んでいた。部活動で今までは油絵をやっていた生徒からすると、立体作品を作るのは初めてだったようだが、回数を重ねていくうちに自発的に自分のやりたい表現方法を伝えて、アドバイスをもらいながら作品作りに熱中していた。

白石レジデンス成果展では、お子様からご年配の方まで幅広い年齢層の方々、合計725名の来場者数を得ることができた。平日4日間の来場者数は約300名、土日4日間で約400名を白石市へ誘致し、白石和紙の可能性を知ってもらうことができた。

さらに、白石市内の学生に部活動やプライベートで展示を観に来ていただくことができ、白石和紙の様々な使い方を観た後に、「私も白石和紙を使って作品を作りたい。」と話しており、和紙を身近に感じてもらい、地域資源の豊かさを知ってもらえるきっかけづくりができた。

来場者は白石市民を中心に岩手県から福岡県まで様々な地域から来ていただいております、「白石市で新しい音楽に触れることが出来て嬉しかった。また開催してほしい。」「普段この地域で見ることが出来ない現代アートに触れる貴重な機会でもとてもよかった。」「和紙を自由に使って表現しているのをみて、和紙の特性も知ることが出来た。」「自分が住んでいるまちのものを使っている作品を見て、白石市の文化に興味を持つことができた。」など様々な感想をいただき、実際に白石和紙を購入して帰られる方が多く見受けられた。

今回の事業で白石レジデンス shiro(アーティスト・イン・レジデンス事業)の認知度向上と、白石和紙に対する興味のきっかけづくりをすることができたと言える。



白石高校美術部との制作



白石高校美術部と共に展示搬入



白石中学校美術部の展示見学



アーティストトーク



「Σ°))))E」によるライブパフォーマンス

高久さん右から3人目と一緒に制作活動に励む白石高の生徒ら



白石滞在の現代アート作家高久さん 白石高生と初展示会 14日からテーマは「修復」

6月に白石市町に開設された滞在型の芸術制作拠点「アーティスト・イン・レジデンス shiro」で活動中の現代アート作家の高久修一さんが14日、白石市町の市立白石高等学校で「白石高生と初展示会」を開催する。テーマは「修復」。

高久さんは、2年前の福島県いわき市で被災を受けた街中を散策し「修復」をテーマに作品を制作。作品に白い和紙と黒い墨を使い、素材の木は被災者が廃棄したものを活かして制作した。

施設は市中心部にあり、小中高といった教育機関と連携した活動の機会を得やすいのが特徴。藤田市長や野田市長も制作活動に賛同。高久さんは「一緒に取り組むことで幅広い価値観を届けたい。生徒たちに良い刺激を与えたい」と話している。

白石高美術部1年の高橋温子さんは「立体物の制作活動は珍しく、新鮮な気分です」と話した。成果展は11日まで、入場無料。

河北新報 記事

2024・6・25

河北抄

アートって、美術館で静かに楽しむもの？ それもいいけど、作られていく過程を見たり、手伝ったりできたら…。

宮城県白石市に15日オープンした「白石レジデンス shiro(シロ)」。

芸術家が一定期間滞在して創作、発表活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」の拠点施設だ。ほとんど使われていなかった白石高の校長宿舍を県から借り受け、地元のまちづくりグループなど力を合わせて改装。板張りの制作スペースや居室を設けた。

AIR施設は2021年、隣の宮城県蔵王町に「遠刈田レジデンス マルヨシ」がオープン。25年まで予約が埋まる盛況ぶりだ。シロも既に来年1月まで8組の利用が決まっているという。

創作意欲をかき立てる「種」を求め国内外から訪れる作家たち。交流によって地域の人たちは新しいものの見方や住み慣れた土地の良さに気付くこともある。

両施設の運営を担う永井京花さんが地元の白石和紙に興味を持ったのも、AIRがきっかけ。アートを日常に、アーティストと友達に。そんな思いを込める。

河北新報 記事

今後における事業展開

市内の中学校・高校と繋がりも持つ事ができたため、これからは授業や部活動などでアートワークを通じた交流を図りながら、創造的な学びを共有する機会を創出していくことができるようになった。これから、コラージュアートや水墨画、油絵のアーティストが訪れる予定のため、引き続き連携していく予定。

別紙4（第8条関係）

収 支 決 算 書

団体名 しろいしプロジェクト

1 収入の部

（単：円）

項 目	予算額	決算額	摘 要
まちづくり交付金	200,000	200,000	
自己資金	495,598	495,598	
計	695,598	695,598	

2 支出の部

（単位：円）

項 目	予算額	決算額	うち交付金対象額
作家招聘費	316,279	316,279	156,000
印刷製本費	136,950	136,950	0
創作活動費	198,369	198,369	0
会場費	44,000	44,000	44,000
計	695,598	695,598	200,000

※支出を証する書類（領収書等）の写しを添付すること。